

『二松』投稿規定

(一) 投稿資格

1. 本大学院文学研究科の専任教員及び兼任教員である者。
2. 本大学院文学研究科の非常勤教員であつて、専任教を持たない者。
3. 本大学院文学研究科院生及び修了者（単位取得退学者）。

(二) 投稿原稿

4. 投稿原稿（以下「原稿」と略称）は、未公表の学術論文に限る。ただし、口頭で発表しこれを初めて論文に纏めたものは、未公表と見做す。

(三) 原稿枚数等

5. 原稿は、校正時に加筆を要しない完全原稿とする。
6. 原稿枚数は、本文・注・図版等をあわせて、四〇〇〇字詰原稿用紙六〇枚相当以内とする。注は、原稿用紙一マスに一字を納める。
7. 図版を必要とする場合、一行五二字または二六字とし、毎ページ何行かを見やすい場所に明記する。また、四〇〇〇字詰原稿用紙に換算した枚数を明記する。
7. 図版を必要とする場合、占有面積一ページ分を四〇〇〇字詰原稿用紙二・五枚の割合で換算する。図版原稿は、そのまま版下として使用できる鮮明なものとし、掲載希望の縦・横の寸法を明示する。

(四) 体裁・表記等

8. 漢文に返点・送り仮名を付けることは原則として認めない。ただし、日本漢文・日本漢学等に関する内容のもので、訓点の施し方自体を論ずる場合はこの限りではない。

9. 注は、各章・各節ごとに付けず、通し番号を施して全文の末尾に纏める。割注を用いることは認めない。

10. 英文または中国文論文題名は、執筆者の責任に於いて原稿末尾に、改行して記入すること。

(五) 原稿締切り・提出先

11. 原稿締切りは、毎年九月末日とする。

12. 提出先は、国文学専攻研究室・中国学専攻研究室とする。

(六) 校正等

13. 執筆者校正は、再校までとする。

14. 校正時の加筆・訂正は、初校段階に限り、必要最小限のものについてのみ認める。再校時の加筆・訂正は、原則としてこれを認めない。

15. 大幅に加筆・訂正された場合、その結果加算される印刷費は、執筆者の負担とすることがある。

16. 執筆者の責任で、校正が期限を越えて遅延し、発行に支障をきたすことが予想される場合、編集委員会の責任に於いて、掲載を中止する場合がある。

(七) 抜刷等

17. 掲載論文の執筆者に対しては、抜刷五十部を贈呈する。抜刷の追加を希望する場合は、初校返送時に追加所要部数を連絡すること。ただし、抜刷追加部数の実費は、本人負担とする。